

「ギターは一生の友かも…」

著者：KOHMORI 福永

出版社：コオロギ出版

初版 2009年8月

～目次～

## 第一章 ギターとの出会い

ギターが弾ければモテる  
ウチの中学校の軽音楽部  
生まれて初めての100点満点  
おやじの意外な一面  
奮戦記！ギターをやめるきっかけは「コードF」

## 第二章 ギターはどのくらい弾けば上手くなる？

趣味共通の友  
プラス思考B型  
没頭という物語  
当時の教材

## 第三章 ライヴやればまじモテる？

念願のステージデビュー  
ガキの頃は背伸びをしたいもの  
ライヴはやっぱり最高  
敵は飽きること

## 第四章 まとめ

楽器は老後の希望？  
徹夜で練習より睡眠がだいじ

～後記～

## 第1章 ギターとの出会い

### ギターが弾ければモテる

時は1975年。俺は中学2年生！結構世間に冷めている特徴のない学生でした。ただ音楽と言う趣味には拘りがあるほどロックが好きでした。

中学校では秋に必ず学芸会ならぬイベントが催されます。学芸会の花形と言えば体育館で行われるロック・フォークコンサート！毎年同期の連中や先輩が学芸会限定のユニットを組んでバンド演奏します。

（1年生のときもあったと思いますが、あまりにも演奏がしょぼかったのか記憶にないです）

このコンサートは楽しみと言うよりも、強制的に聴かなきゃいけないから仕方が無く体育館で無駄な時間を過ごすのかと、冷めていたのが正直なところでした。

が！しかし！今年は違いました。一級上の先輩の方たちのユニットがLEP（レッドツェッペリン）の「天国への階段」を演奏したのです。

アコギのアルペジオから始まり、リコーダーを使ってそっくりのメロ。ボーカルはロバートプラントに比べたら劣り過ぎなのでしょうが、当時の私には衝撃でした。そしてジミーペイジバリのギターソロ！はっきり言ってぶっ飛びました。

当然、大好きな曲のひとつで知っていましたし、俺はLEPじゃないと天国への階段は演奏できないと思っていました。素人どころか中学生が演奏できるなんて思いも寄りませんでしたので鳥肌が立ちっぱなしで身体が震えました。

演奏が終わった後の、惜しめない会場からの拍手（体育館だけ）と女子生徒たちの熱いまなざしは、今まで味わったことの無い世界へ導かれる思いでした。

先輩達は天才だ！と言うより素人でもやればロックを演奏できるんだ！と言う気持ちが混み上げて来て「俺、ギターやりたい」「これをやれば絶対モテる」と確信したのです。

ギターを弾くきっかけはアーティストや曲への憧れが一般的に多いです。

たとえば吉田拓郎のように弾き語りがしたいとか、CAROLのファンキーモンキーベイビーがかっこいいからコピーしたいとか。でも俺はこれと言ってこの曲が弾きたい！このアーティストみたいになりたいよりもまず「モテること」「注目されること」ここが大きな要素だったみたいです。

### ウチの中学校の軽音楽部

聞けば先輩たちは、ウチの学校の軽音部に所属しているとのこと。そんなクラブがあることすら知りませんでした。見学に行くと甲斐バンドやらCAROLやら演奏しているではありませんか？今聴けば下手くそなのでしょうが、部員のみんなが別世界の人々に見えました。

では早速入部しようと言うより、まずギターを買って少し弾けるようにならなくてはいかん。

「今入部してもバカにされてしまう」そんな気持ちで、ここは、こそっと練習して「ある日突然上手になった」みたいなシナリオを狙っていました。

## 生まれて初めての100点満点

勉強も嫌いだったし、単純になにか遊び道具がほしかったのかもしれませんが、とにかくギターがほしくて、楽器屋に下見したのです。

確か蒲田か池上のスター楽器に行った気がします。今は初心者用にアジア製で色々付属品もつけて19,800円とかありますが、当時は最低でもギターのみで3万円はしました（日本製 こだいじ）高けえ！絶対買えねえ。でもなんとしてもギターがほしい。こずかいは月に2,000~3,000円くらいだったと思います。中学生のバイトは禁止だし困った。やはり父親に頭を下げるか…。

酒が入るとおやじはくどい。やはり休日の昼間の交渉を選択しよう。

「あの～相談があんだけど」成績は落ちてるし、下手な小細工はやめてストレートに勝負しよう。「ギター買ってほしんだけど？」普通「なんで？」「いくらするんだ？」とかくるはずが、「いいよ」と来た。やったラッキー！なんて話のわかる父親なんだ。と喜んだ瞬間「但し条件がある」今度の間テスト（3年生の春）で「全教科の平均点が70点（65点かも…ちよっと忘れた）を超えるか」、「1教科でもいいから100点満点を取るか」、「どちらかクリアできたら買ってやる」と来た。

「まじか？」ハードルが高いと言う不安より、ギターが買ってもらえるこの好条件に一発交渉成立となった。しかしよく考えるとこの条件、成績の悪い俺のために設定されたと言うより、簡単にモノは手に入らない。努力せえ！そんな意味を含んでいる教育の一環だった気がします。

努力して得たものはすぐ飽きたりせず、一生懸命継続しモノにする。そんな意味もあったのでは…？

で！俺どうする？になるのですが、結論は早かった。平均点より一教科にパワーを注ぐ方が近道だ。狙いの教科はどれにする？満点を取るのに限りなく可能性がある教科。保健体育か？いや「美術だ！」それ以外はどうでもいい。美術で100点を狙おう。

それから問題傾向と対策を恐ろしいくらいに研究し勉強をした。そのプロセス話は別のときに書くとして、みごと運よく生まれて初めて100点を取った。涙が出そうだった。しかも父はしっかり約束を覚えていた。早速、渋谷の楽器屋へ繰り出しmorrissの3万円ちょっとのアコースティックギターを買った。ハードケースも付いてきた。すげえ嬉しかった。

売れっ子アーティストになった気分だった。このとき、既に中学3年生の夏でした。

## おやじの意外な一面

ミスだったのはギターさえ手にいれれば全てがOKとっていて、必要最低限の品があることに気づきませんでした。楽器屋の定員さんが勧めていたのに小物はあとでいいと断った自分に後悔です。まず何をするんだ？弦って6本なのか？音あわせか？どうやるんだ？ドレミファでいいのか？構え方ってどうすんだ？左手で弦押さえるのか？

とまあ、なにもわからん状態で地元のレコード屋に付属品を買いに行きました。

（いっぺんに買えば自腹切らずに済んだのに…バカか！）

音あわせの笛ってあるんですよ。1弦から6弦の音が出る笛。画期的ですよ。

それで音あわせしました。チューニングするだけで1時間掛かった。で？次はどうすんだ？？？

弦をスライドして遊んでいると・・・

父が「おう！買ってきたのか、どら弾かしてみろ！」と簡単にチューニングし古賀政男や禁じられた遊びをアルペジオで弾きだしました。

なぬうううううう～？

おお・・・おやじギター弾けるんだ！昔ウクレレを弾いていたのは記憶にあるが、まま・・・まさかギターをこんなにさらっと弾くとは？ロックやフォークは無理にしてもこんな身近に教えてもらえる人がいたとは・・・？父曰く、とりあえずコードブック表と、なんか自分のやりたい楽譜買ってこい。教えてやる。と、なにやら自慢げ。ここもプライドが高いので「絶対教わらんぞ・・・」

とにかくこそこそ練習してある日突然上手くなるんだ。と心の声！

しかし！そうか！教材がいるのか・・・俺はことごとくおバカな奴だ。

### 奮戦記！ギターをやめるきっかけは「コードF」

教材を購入すると早速、弦の押さえ方に挑戦。まずはAm。2・3・4弦を押さえますが、1弦の開放は鳴ってません。しかも音がビビリミュート気味で綺麗な音を奏でていません。

まいった！つぎはCだ。よしDだ！よっしゃEmだ。繰り返し何度もやれば形になってきてる気がして、Amすらちゃんと鳴ってないのにドンドン突き進む。

じゃあ次は曲を弾こう。陽水の「東へ西へ」だ。Am、E7、Am、G「昼寝をすれば夜中に～」

なんとかそれらしくなって来た。楽勝じゃん！と思った瞬間。「F？」なんだこりゃ？

まじでびっくりしました。人間の指の数でこのコードを押さえられるのか？なぜ思った通り指って動かないのだろう？俺の手が極端に小さくて、指の神経が麻痺してるんじゃないのか？

と思うほどできない！鳴らない！押さえられない！

B F# Bm C#m 人間技を遥かに超えた不可思議コードにギターの面白さと、あのモチたかった熱い想いが引いて行くのに気がつく、徐々にギターは押入れで粗大ゴミと化して行きました。たった3ヶ月での挫折です。

ハードルが高過ぎたのか？

俺にギターは向いてないと決め付けました。もうギターを見るのも嫌でした。

こうして中学生のときのギターは私の中で終わりました。

聴き手が一番！プレーは上手い奴がやればいい・・・

あ～あ！時間と金ももったいなかった。

「努力して得たものはすぐ飽きたりせず一生懸命継続しモノにする」

・・・は結局無理でした。

## 第2章 ギターはどのくらい弾けば上手くなる？

### 趣味共通の友

ギターのことなどすっかり忘れ高校へ入学！

ワルぶってるあんちゃん達が沢山いらっしやる不良高校です。

授業すらまともに聞く奴は少なく、休み時間はカツアゲやら喧嘩やら上等小僧しかおりません。

そんなクラスの俺の後ろの席になぜかクラス委員をやっててロック好きな、にいちゃんがいきました。聞けば彼はピアノが上手く、ギターも弾けると言ってます。

そうです！この人が後のKOHMORI藤原くんです。（そうだよ。五十音で福永 藤原だもんね）

時間を見つけては彼とロックの話題で盛り上がり、彼の家に遊びに行き、音楽の情報交換をしました。イエス、ピンクフロイド、ジェフベック、キッスなど中学時代から熱く耳を傾けてきたアーティスト達の話題で盛り上がる事ができた友人でした。

ただ彼はギターもピアノも弾ける。自分は聴き手でなにもできない。

リッチーやジミーペイジやジョーペリーみたいに弾きしてみたい。天国への階段のソロ弾いてみたい。BURNのリフ覚えたい。そんな思いが急激に膨らんで来ました。

エレキギター買うっきゃねえ。それにはとにかくバイトだ！バイト！この夏休みが勝負だ！

### プラス思考B型

倉庫で夜中警備、商品の検品、電機関係の会社で部品の取り付けなど、時給単価の高い仕事を選び、むちゃくちゃ働きました。世間に冷めてても目標があると人は燃えるものですね。多分人生の中で一番働いたのではないのでしょうか（笑）

バイトやりながら当然ギターの研究はしてまして、10万以上の品質のよいブランドに狙いを定めていました。バイト給料を握り締めてESPへ繰り出し、カスタムのレスポールと、教材やアクセサリ（エフェクターetc）もしっかり手に入れました。

自分で汗水垂らして買ったギターだ！今度は挫ける訳にはいかない！と言う思いより、高級ギターを手に入れた嬉しさが強く、中学時代に失敗したのは安物だったしアコギだったから、ダメだったんだと、決して自分の腕の悪さの責任にしないところが、幸せ族B型だとつくづく思います。

ちなみにアンプは予算がないので、グヤトーンの回路が雑誌に載ってたんで、部品を秋葉原で全て購入し15W程度のトランジスタアンプを作りました。

市販の半分の価格で完成したし、トレモロやリバーブまで付けたんすよ。

凄くないっすか？時間はあるけど、金がないときは手作りが基本っしょ。

## 没頭という物語

よくギターを初めたばかりの方に、どのくらい弾けば上手くなりますか？と質問されることがあります。必ずと言っていいほど「時間の問題じゃなくて、だいじなことは時を忘れるほど没頭すること」と答えます。

例えば、レコードの溝が擦り減るまで聴くとか、カセットテープが伸びて壊れるまで曲を聴くとかいいますが、気づいたらギターがぶっ壊れるまで弾きました。(ほんとは壊れてない)休みのケースですと、朝起きて、早速弾き始めて軽く(-。-)y-一服して(なんで高校生が一服なんだ・・)

とりあえず朝食は取るものの、朝の一通りの用事が済んだら、一心不乱にギターを弾く。カセットデッキを何度も巻き戻し、音取りをしてコピーする。

手につくまで何度も繰り返す

トイレも限界まで我慢する。14時頃になると「いい加減お昼食べちゃいなさいよ！」と家庭ルールが飛んで来るが、「あ～！ちょっと待って！」と軽くそれから二時間くらいは経過する。そして気付けば「夜だった」のパターンは当たり前のことでした。

ときに行き過ぎると、近所からクレームの電話が鳴る。当然母親からお叱りがある。そんなときは素直にアンプを外し、ヘッドフォンに切り替えるしかない。

当時は個人スタの様な格安スタジオも存在しない時代。長く続けるにはルールを守るしかない。しかし隣り近所は、同じフレーズやバックングを歪ませた爆音で長時間も聴かされるんだ。こんな苛立たしく、不愉快なことはないかもしれない。

逆の立場だったら俺は、絶対怒鳴り込んでるはずだ。

## 当時の教材

今の時代は「怒涛の完全エレキギター」とか「ハイテクニック教本」などDVDやCD付で手に入り、スキルアップできる時代ですが、とにかくこの頃はバンドスコアと言う考え方がなかった。あっても肝心のTAB譜がなかったり、まるっきり間違った記載がされている、いい加減なものばかりでした。

とすると耳コピ職人(レコードやテープを聴いて耳で音を取りコピーする)でした。

どこまで本物に近い音で、コピーしてかっよく弾けるか！ここが拘りB型を熱くさせる要素でもありました。

(やっぱLe pの天国への階段は苦労した・・・ジミーペイジうめえ～し)

(でもお陰で今でもスモーク・オン・ザ・ウォーターやBURNは完璧よ)

弾けるようになったときの達成感は、いい女を口説き落としたりと並みに、雄叫びをあげる喜びが込み上げて来ました。

そして友人連中に弾いて聴かせて「完璧じゃん！」「よく音取れたね」と言う関心の言葉に「いや～難しかったし、まだまだだよ！」と謙遜するものの、心の中は「バカたれ！誰がギター弾いてっと思ってんだ！努力の過程が違うんじゃ！」と有頂天なインチキ天狗ギタリストになっておりました。

### 第3章 ライヴやればまじモテル？

#### 念願のステージデビュー

ギター歴1年が経過していました。

ある程度弾けるようになると誰でも「バンドやりてえ」とか思うものでございまして、

高校2年生の夏！急きょバンドを組みました。

同級生で別の学科のボーカルくん、同級生で隣のクラスのベースくん、一級上の先輩のドラムス、そして俺がギターです。

ごめんなさい！バンド名が思い出せんのです。何度考えても・・・？

チャレンジはディープパープルとレインボーのコピーをやることになりました。

そしてステージデビューは11月です。そしてあっという間に本番がやって来るものです。

スタジオはそこそこやったものの、練習不足は必至でして、ステージ本番前には

ド緊張で手に汗が止まらず、なぜか足が妙に震えます。

楽屋で指のストレッチはするものの、手が震えて全く弾けません。

これが初めてのデビュー緊張と言うものなのか？

「やべえ！これじゃ演奏できねえ！」とにかく古典的なので、人と言う字を何度も書いて飲みました。そして会場にいるのは、「全員かぼちゃだ！」と言い聞かせました。

(実は俺はかぼちゃが苦手・・・)

そしてステージにあがると、100人以上は観客がいました。スポットライトが灯されると、完全に震えが恐怖心になり、頭の中は真っ白に染まりました。

脳みそが固まった放心状態の俺に、ドラムの先輩から「おら！しっかりやれよ」と一喝！

一瞬、我に返った気がしたが、やべえ！ギター弾かなきゃ・・・ ワン・ツー・トゥリ

ー・フォー　ぎゃ～ん

ここから全く記憶がありません

(ミステリーテッドやったなあ～ 銀嶺の覇者もやった・・・みんな曲知ってる?)

多分相当しょぼいビートだったと思います。

音源はカセットテープで撮ったと思いますが、もうどこかへ隠れてしまいました。

「あれ？ファンのおなごは？」「花束は？」あっという間にみんな会場を後にしました。

誰がバンドやればモテルってえ～～～(涙)

#### ガキの頃は背伸びをしたいもの

ハードロックと言うジャンルは結構ヘビィなサウンドですが、実は大好きなジャンルはプレグレッシヴと言うクラシックとロックがジョイントした感じの音楽ジャンルです。

ジェネシスとかキングクリムゾンとかありますが、俺が中学の頃から憧れていたのは、

「ピンクフロイド」と「YES」マニャクな話は抜きにして、心の底からこの神秘的なサウンドを聴きながら、情景を浮かべて涙したものです。

この音楽に挑戦したくて、今度は違うバンド作りに躍起になりました。

「ねえ！プログレやらない？」「プログレえ～ 誰もやんねえだろ、あんな変人音楽は…」  
はっきり言って相手にしてくれる仲間はいませんでした。

そんなある日校内で、機械科の不良どもと大ゲンカをしている細い体系をしたあんちゃんが  
いました。(ほんとにこのときは細かった)

小競り合いのあと、なぜか彼と仲良くなり、話をすると、彼は自分の隣のクラスで、ドラ  
ムを叩くとのこと。割に地味なタイプで「ほんとにこいつ太鼓叩けんのかぁ」ってイメー  
ジでしたが、横浜の家に遊びに行くと、ドラムセットががっつりあり、もの凄いパワーで叩  
き始めました。この方が後のKOHMORI直人くんです。

そして彼はあのプログレ好きで、YES命と言うではありませんか。

「こいつ引きずり込むっきゃねえ！」

前ベースを弾いてくれた彼はフュージョン系の音楽が好きだけど、説得すればいい。

あとはボーカルとキーボードだ。と今後の人間騙し討ちを考えていると、

直人が「藤原プログレ好きだよ」と言うではありませんか、そっか！こいつら二人同じクラ  
スだ。ベースもちゃんとして、ギターが入ればすぐにでもバンドが完成すると言う。

「俺、入れて？」「プログレやろうよ」

…こんなイキサツだったか記憶が怪しいけど、軽い気持ちで始まったバンドでした。

リーダーのベースくんの名前を取って「ヤマナカファミリー」に、とりあえずしました。

(本当はそのとき藤原はCAROLがやりたかったらしい…

…このことが25年後に発覚する)

下校後、必ずスタジオ直行！休みも大森付近で長時間スタジオ。そのあとも喫茶店行って  
ビールやカクテル飲みながら反省会(だから高校生だろっつーの！)

1年間みっちり練習しました。

レコーディングもしちゃったりして、かなりアーティスト気分満喫モードでしたね。

仲間との時間が充実していて、モテたいなんて気持ちはどこかへ売り飛ばしましたって感じ  
です。

## ライブはやっぱり最高

学園祭の目玉って最近ダンス部のヒップポップだったりする時代ですが、この頃は  
やっぱりロックバンドが花形。

はっきり言って朝からテンション高かったね。6時に家出て学校へ向かった。

メンバーも早めに登校してきた。

念入りにリハーサルして、本番まであつと言う間でした。

10バンドは出場しただろうか？うちの高校にこんなにバンドの数があつたんだ？

そうだよなうちの学校軽音部があるもん。(ちなみに我々は軽音部ではありません)

フォークあり、ロックンロールあり、「高校生レベルは所詮こんなもんか」ってアクビしな  
からミキサーとかやってみました。

ウチらは確かケツから一個前の出番。

機材も鍵盤3つレンタルして、ストリングスや生ピアノ。エフェクトも完璧で熱いサウンドを聴かせました。達成感ありましたよ。新婚の教師に捧げる曲までやったりして、凄い喜んでくれましたよ。これで内申書バッチシだなとか思ったもん。でもその先生バツイチになっちゃったんだよね。やっぱあのときに捧げたソングがいけなかったのでは・・・？というウワサをあとで聞いた。知らねえよ、そんなこと！

### 敵は飽きること

このバンド！もっと活動して、世間に名を残す道を歩む選択肢もあったのですが、もう高校生活も残り3ヵ月。それぞれが別の道を歩みだす。ベースくんがジャズ。藤原と直人は別のバンドを組んで幅広く音楽活動。俺はなぜか、急激に楽器の趣味が覚めた。高級なギターやエフェクターも二束三文で売却してしまう。そして全く違うジャンルの趣味の道に15年間遠出をしてしまう。あんなに一生懸命狂ったように弾いたギターがバカバカしくなってしまった。こうしてこのお話は「波のり道中記へ」と移り変わり、このブログはおしまいです。

世の中には面白いことが溢れんばかりに存在し、また凝りだすと奥が深くてたまらない。しかし、同じ趣味継続の最大の敵は「飽き」だとまじめに思っている。

## 第四章 まとめ

### 楽器は老後の希望？

色々書いてまいりました。最後までお付き合い下さりありがとうございました。  
感想でも頂けたら嬉しい限りです。

私ことですが、義父が施設ケアセンターに入ってもう2年以上になるのですが、  
たまにお見舞いに行きます。いいお歳の老人がみんなで歌を唄ったり、絵を描いたり、折り紙したりしています。(老人ホームは普通こんな感じか・・・)  
お見舞いに行くとき一斉に「ギョロっと」こちらを怖い目つきでみんな見つめるのですよ。  
ちょっと話をしてみると、「もう生きててもしょうがない」「毎日がつまらない」とぼやいています。だよなあ～！生きて行く希望がないことは苦痛だよなあ。  
でもひとりもギター弾いている人がいないんですよ。(当たり前か・・・)  
でもでも、楽しそうにギター弾いているご老人がもしいたらどう思います？  
自分の過去のライブビデオをベッドで観て涙を流している方がいたらどう思いますか？  
人間、歳には勝てません。成長がなければ希望も持てません。  
音楽活動を続けるということは今は楽しいだけではないと私は思っています。

### 徹夜で練習よりがっつり取る睡眠がだいじ

ここだけの話ですが、実は私の一番趣味って競馬なんですよ。もう30年近くやってます。  
(テンポイントやトウショウボーイの頃からですから、かなり古いです)  
(こちらのブログも書きたいかも・・・)  
勿論、私より大大ベテランの方もいらっしゃいます。  
長い経験と研究を重ねて、馬体をチェックしてレース展開を読んで、血統から適正も読んで、  
ときには厩舎や馬主裏情報も仕入れて・・・いざ！本番大ハズレ。  
そんなケースは五萬とあります。そうかと思えば、ナイター競馬に初めて彼氏について来た  
彼女が、誕生日の目の馬券を買って大当たり。なんて例もあります。  
要するに、ギャンブルは努力・経験を重ねたものだけが勝つものではないのです。  
努力が簡単に裏切られるのです。  
そこ行くと楽器は裏切りません。(勿論、楽器だけではありません・・・)  
努力した分だけ成長してゆきます。  
Fコードも全く鳴らなかった私が、今は目をつぶっていても対応できるようになります。  
今日できなくても明日があります。今週がだめでも来週があります。  
継続し続けることで、いつか巧くなれるのです。  
そして努力したことを冷静に見つめて、成長の手助けをしてくれているのが、「睡眠」です。  
今日、何百回やってもできなかったことが翌日にできたりする。人は寝てる間に育つと  
言います。背丈は伸びなくとも、筋肉や細胞は寝ている内に進歩するのです。  
徹夜するより、がっつり寝た方が勝ちなのです。・・・「努力したあとは」と言う条件が付きますが。

## 後記

以上、また面白い過去の武勇伝があったら書いてみたいと思います。  
次回のブログにご期待くださ~い

KOHMORI 福永